

事業シート(概要説明書)

仕分対象事業名(個別事業名)		鎌倉青果地方卸売市場関係補助金			
中事業名		農業振興運営事業	担当部・課名	市民経済部産業振興課	
総合計画上の位置付け(分野名)		産業振興	担当名	農水担当	
事業開始年度	平成3年度	根拠法令	鎌倉青果地方卸売市場活性化事業補助金交付要綱		
	昭和57年度		鎌倉市野菜生産出荷奨励事業補助金交付要綱		
	昭和57年度		鎌倉青果地方卸売市場集荷奨励事業補助金交付要綱		
実施方法	補助金(直接・間接)(補助先:鎌倉青果市場商業協同組合)				
	補助金(直接・間接)(補助先:鎌倉出荷組合・鎌倉市施設園芸出荷組合等)				
	補助金(直接・間接)(補助先:鎌倉青果株式会社)				
事業概要	目的 (何のために)	小売業者が、新鮮で安全な野菜・果物等を市民に安定供給するため 生産者への出荷意欲向上と鎌倉青果株式会社の計画的な集荷の促進のため			
	対象 (誰・何を対象に)	鎌倉青果商業協同組合	組合の行う鎌倉青果地方卸売市場の活性化事業		
		鎌倉青果株と契約している 市内生産農家の出荷団体	出荷団体の鎌倉青果地方卸売市場への出荷取扱額に応じて補助		
		鎌倉青果株	市外出荷団体の鎌倉青果地方卸売市場への出荷取扱額に応じて補助		
事業内容 (手段、手法など)	鎌倉青果卸売市場の開設者である鎌倉青果商業協同組合が行う市場活性化事業(集荷拡大対策・販売拡大対策・青果物残さリサイクル)に対して、事業費の支援を行う。				
	鎌倉青果株と出荷契約を行った市内の出荷団体に、年間の出荷計画の80%以上を出荷出来た場合は、出荷した野菜の販売額に市長が定める率(5%以内)を乗じた額の補助を行う。				
	鎌倉青果株が野菜を集荷するために出荷契約を行った市外の出荷団体からの集荷が、年間計画の80%以上を集荷出来た場合は、集荷した野菜の販売額に市長が定める率(4%以内)を乗じた額の補助を行う。				
事業の必要性	昭和56年に都市計画決定し、昭和57年に開場した鎌倉青果地方卸売市場は、市場を取り巻く流通の変化などその運営は厳しい状況にありますが、生鮮食品の流通において生産者と消費者を結ぶ役割を担っており、新鮮な野菜の安定供給の観点から当事業による補助制度を継続することが必要と考えます。				
コスト	事業費	平成22年度	人件費内訳		従事職員数
		2,556 千円	職員構成	平均人件費 ×従事職員数	
		855 千円			
	1,725 千円				
人件費	912 千円	担当正職員	912 千円	0.1 人	
総計	6,048 千円		臨時職員他	0 千円	0 人
事業費 (財源内訳・ 単位千円)	年度	総額		補助対象事業の全体経費に対する 市の負担(支出)割合	平成22年度予算の財源内訳
	H19(決算)	2,846	31.4%	国補助金	0
		298	5.0%	県補助金	0
		1,650	3.0%	起債	0
	H20(決算)	2,690	33.2%	一般財源	5,136
		455	4.0%		
	H21(決算見込)	1,534	3.0%		
		2,690	32.6%		
		645	4.7%		
	H22(予算)	1,798	3.6%		
2,556		35.6%			
855			補助対象事業全体経費 未確定		
	1,725		補助対象事業全体経費 未確定		

平成22年度 事業費内訳	市場活性化事業 (申請団体) 鎌倉青果商業協同組合(総事業費) 7,175千円(補助金申請額) 2,250千円 1.集荷拡大事業(束ねらテーブルなど生産者出荷用資材作成 1,913,千円) 2.販売拡大事業(青果物特売セール等経費 2,250千円) 3.青果物残さリサイクル処理(処理機器の維持経費 3,012千円)				
	出荷奨励事業(市内から) (申請団体) 鎌倉出荷組合(出荷年間計画数量) 14.1ト (申請団体) 鎌倉市施設園芸組合(出荷年間計画数量) 33.6ト				
	集荷奨励事業(市外から) (申請団体) 鎌倉青果株式会社 (集荷年間計画数量) 289.1ト (集荷内訳) 横浜丸東組合133.6ト 俣一組合79.2ト 小和田組合17.9ト 芦名組合58.4ト				
活動実績	【活動指標名】 / 年度実績・評価	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	鎌倉青果商業協同組合の組合員数	人	70	64	62
	市内出荷組合の出荷(市内)取扱量	ト	30.9	44.5	52.2
	鎌倉青果株式会社の集荷(市外)取扱量	ト	336.3	323.9	311.9
単位当りコスト (事業費/活動指標)	事業費 / 組合員数	円	40,657	44,469	43,387
	事業費 / 出荷取扱量	円	9,644	10,225	12,356
	事業費 / 集荷取扱量	円	4,906	4,736	5,765
成果目標 (現状の成果及び今後どのようにしたいか、定量的な評価で示す)	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市における市民への新鮮で安全な野菜の供給には、小売店の役割は、とても重要であり、小売店が地場産の野菜を扱えるよう鎌倉青果地方卸売市場を開設した。近年の流通形態の複雑化、また近隣市場との消費エリア取りにより、現在の市場の取扱量は、開設当初の約16%に落ち込み、同様に取扱額も約20%まで減少している。今後の鎌倉青果地方卸売市場の運営は、このような経営状況の中で、身の丈にあった市場のあり方、規模などを検討するよう促していく。 ・取扱量の現状維持を目標とする。 				
成果実績 (成果指標の目標達成状況等)	【成果指標名】 / 年度実績・評価	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	取扱額	千円	407,072	409,059	383,524
	取扱手数料	千円	27,487	26,468	25,181
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の観点からも、地場産(鎌倉・神奈川県)野菜の出荷や集荷に努めている鎌倉青果市場等への支援を継続する。 				
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	<p>川崎市:出荷推進対策事業(予算額 8,524千円 野菜出荷組合 38 花き出荷組合 4) (野菜出荷組合へ出荷金額の4%、花き出荷組合へ出荷金額の3%) 平塚市:野菜生産出荷奨励事業(予算額225千円 2団体) (出荷団体が市内の卸売市場へ共同出荷した対象品目野菜の売上額の1%以内) 相模原市:野菜生産出荷奨励補助金(予算額1,200千円 9団体) (農協出荷奨励金 出荷額の3%) 野菜生産出荷奨励金事務取扱交付金(予算額450千円 3市場)</p>				
特記事項 (事業の沿革等)	<p>昭和55年3月に鎌倉青果地方卸売市場と株式会社カネ石鎌倉食品市場が統合に合意し、昭和56年3月2日都市計画決定し、昭和57年4月に鎌倉市、逗子市、葉山町を流通圏にして「鎌倉青果地方卸売市場」として開設された。</p> <p>鎌倉市の人口(昭和60年) 175,400人 (平成21年) 173,500人 取扱い量 (昭和60年) 8,231ト (平成21年) 1,627ト</p>				